

大阪府立芥川高等学校 令和4年度第2回学校運営協議会 議事録

校名	府立芥川高等学校
(准)校長名	富山 一紀

開催日時	令和4年11月29日(火)
開催場所	府立芥川高等学校 校長室
出席者(委員)	相川会長、清水委員、齋藤委員、濱崎委員、渡辺委員
出席者(学校)	校長 富山、教頭 吉岡、事務長 川谷、首席 藤原、進路指導主事 片山、書記 元屋敷、中西
協議資料	令和4年度学校経営計画の進捗状況、学校教育自己診断の質問項目 スクールミッション案、進路現況について、令和5年度使用教科書選定資料 等
備考	

議題等(次第順)

- ・授業参観に関して意見交換
- ・夏休み以降の学校の動きについて
- ・学校教育自己診断について
- ・令和4年度学校経営計画にもとづく取り組みの進捗状況
- ・スクールミッション案について
- ・進路指導部より(進路現況について)
- ・令和5年度使用教科書選定について(報告)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

○授業参観について、委員から「生徒と教員のやり取りで授業が進んでいて、生徒の頑張りが見られた」「子どもたちの普段の雰囲気を見ることができた」との感想が寄せられた。

○第1回学校運営協議会(6月)以降の学校の様子が報告された。委員からは、学校説明会で初めて生徒スタッフを前面に出した運営をおこなった効果について質問があった。参加した中学生・保護者には「本校生の学校での様子がよく分かった」と大変好評であったことが報告された。

○「学校教育自己診断」の質問項目について、昨年と同じ設問に加え、一人1台端末の利用状況を問う設問を加えたことが報告された。委員から「特に注目している設問があるのか」という質問があった。同じ設問を続けることで経年変化を見ているのと同時に、生徒への設問のうち特に、「入学してよかった」「学校へ行くのが楽しい」「授業に満足している」などについては、注目しているとの回答であった。

○学校経営計画の進捗状況で、遅刻指導について生活の振り返りをさせていねいに個別指導する方法に改善したがなかなか減少に向かわないとの報告に対し、委員からどのような効果があるかとの問いがあり、継続して見ていきたいとの発言があった。

○同じく学校経営計画で、人権教育推進委員会や教育相談支援委員会での支援を要する生徒の情報共有、スクールカウンセラーやSSWSV(スクールソーシャルワーカースーパーバイザー)との連携協力についての報告で、委員から「スクールカウンセラーが身近なことが大切」との助言があった。

○「部活動入部率や継続率の向上を掲げながら、1,2年生の部活動加入率が6月時点から11月にかけて減少しているのはなぜか？」との問いがあった。部活動に対して、他の委員から「コロナ禍で中学・高校での部活動等の経験が減りつつある。今後増加するであろう大学の総合型選抜では、部活動の経験は重要と思うので部活動は大事にしてほしい」、また他の委員からも「職場等で、人とうまく付き合う方法をどこで体得したかと尋ねるとやはり高校での部活である」と、部活動の意義を重視するよう助言があった。

○スクールミッション案について、7月に全教員による研修を行ない、本校の歴史や築いてきた地域の信頼を踏まえつつどのように生徒を育てていくかを練り上げ作成したことを報告した。委員からは「スクールミッションを作り上げたプロセスを大事にすべきで、話し合いの経過を残しておき、3年、5年と振り返ることで原点を確認できる」との助言があった。また、別の委員から「学校教育自己診断」やその他のアンケートで、スクールミッションに関して統計を取り経年変化を追っていくようにすると、今後、学校の取組をチェックしたり、芥川高を中学生にどのように発信できているかを確認できるとの助言もあった。

○進路指導部より、進路指導の取組と状況について、①3年生指定校推薦については、例年通りの人数が志望、②就職希望者も志望者全員が内定が決定、③大学入学共通テストは昨年度の3分の2程度の出願数、④日本学生支援機構の予約奨学金の申込者数等、報告があった。また、「学校経営計画」にもある1年生への職業別ガイダンス、2年生での分野別ガイダンスの中に本年新たに看護系進路希望者のグループを作ったこと等、報告があった。

○令和5年度使用教科書について、採択教科書と採択理由の報告があった。

次回の会議日程

日時	令和5年2月22日(水)
会場	府立芥川高等学校 1階 校長室